

## 平成27年横浜港の港勢

### 入港船舶

		単位	27 年	前年比	構成比	26 年	前年比	構成比
総 数	隻 数	隻	35,979	99.4	100.0	36,187	96.0	100.0
	総トン数	総トン	284,555,233	102.8	100.0	276,721,196	102.0	100.0
外 航 船	隻 数	隻	9,865	100.0	27.4	9,863	98.9	27.3
	総トン数	総トン	241,660,331	103.1	84.9	234,485,541	102.8	84.7
うち フルコンテナ船	隻 数	隻	4,584	100.8	46.5	4,547	94.9	46.1
	総トン数	総トン	114,692,117	101.6	47.5	112,866,554	97.4	48.1
内 航 船	隻 数	隻	26,114	99.2	72.6	26,324	94.9	72.7
	総トン数	総トン	42,894,902	101.6	15.1	42,235,655	97.6	15.3

### 海上出入貨物

		単位	27 年	前年比	構成比	26 年	前年比	構成比
総 数	貨 物 量	トン	114,741,049	98.1	100.0	117,014,290	98.2	100.0
	うちコンテナ貨物量	トン	39,358,350	96.3	34.3	40,861,065	97.2	34.9
	コンテナ個数	TEU	2,787,296	96.8	100.0	2,880,029	99.7	100.0
外 貿	計	トン	74,488,202	101.1	64.9	73,695,858	99.0	63.0
	輸 出	トン	31,591,035	101.4	27.5	31,141,288	99.0	26.6
	輸 入	トン	42,897,167	100.8	37.4	42,554,570	99.1	36.4
うち コンテナ貨物	計	トン	36,833,692	95.5	49.4	38,575,628	97.6	52.3
	輸 出	トン	15,031,741	92.2	47.6	16,303,643	93.4	52.4
	輸 入	トン	21,801,951	97.9	50.8	22,271,985	100.9	52.3
コンテナ個数	計	TEU	2,513,511	96.2	90.2	2,611,771	100.9	90.7
	輸 出	TEU	1,330,019	95.6	47.7	1,391,042	100.2	48.3
	輸 入	TEU	1,183,493	96.9	42.5	1,220,730	101.8	42.4
内 貿	計	トン	40,252,847	92.9	35.1	43,318,432	96.8	37.0
	移 出	トン	16,307,751	93.4	14.2	17,462,551	97.9	14.9
	移 入	トン	23,945,096	92.6	20.9	25,855,881	96.1	22.1
うち コンテナ貨物	計	トン	2,524,658	110.5	6.3	2,285,437	90.2	5.3
	移 出	トン	1,407,596	115.7	8.6	1,216,953	89.3	7.0
	移 入	トン	1,117,062	104.5	4.7	1,068,484	91.2	4.1
コンテナ個数	計	TEU	273,785	102.1	9.8	268,258	89.4	9.3
	移 出	TEU	113,698	110.3	4.1	103,097	89.8	3.6
	移 入	TEU	160,087	96.9	5.7	165,161	89.1	5.7

(注) コンテナ個数は、実入・空の合計。

「うちコンテナ貨物」の構成比は、外貿又は内貿の貨物量に占めるコンテナ貨物の割合。

### 貿易額

		単位	27 年	前年比	構成比	26 年	前年比	構成比
合 計		百万円	12,153,948	103.6	100.0	11,734,937	107.4	100.0
輸 出		百万円	7,531,005	105.8	62.0	7,117,710	105.5	60.7
輸 入		百万円	4,622,943	100.1	38.0	4,617,227	110.6	39.3

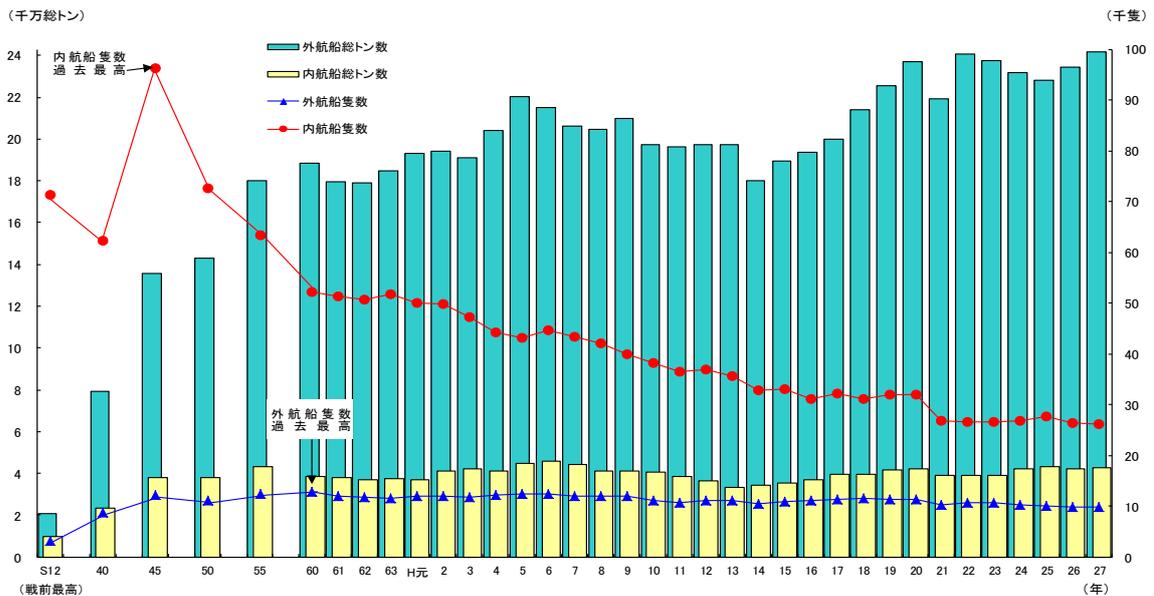
(注) 横浜税関資料による(確定値)。

平成27年の横浜港の総貨物量は、1億1,474万トン（前年比1.9%減）で、前年に比べ微減となりました。外貨貨物は、輸出3,159万トン（1.4%増）、輸入4,290万トン（0.8%増）といずれも増加に転じ、なかでも輸出の中核をなす完成自動車は前年比10.2%増と好調に推移しました。また、内貨貨物は移出1,631万トン（6.6%減）、移入2,395万トン（7.4%減）といずれも減少となりました。コンテナ取扱個数は、外貨・内貨合計で279万TEU（3.2%減）となりました。

## 1 入港船舶 【P9】

入港隻数は外航・内航合計で3万5,979隻（前年比0.6%減、以下増減%は前年比）と微減となりました。総トン数は2億8,456万総トン（2.8%増）と、2年連続の増加で過去最高となりました。

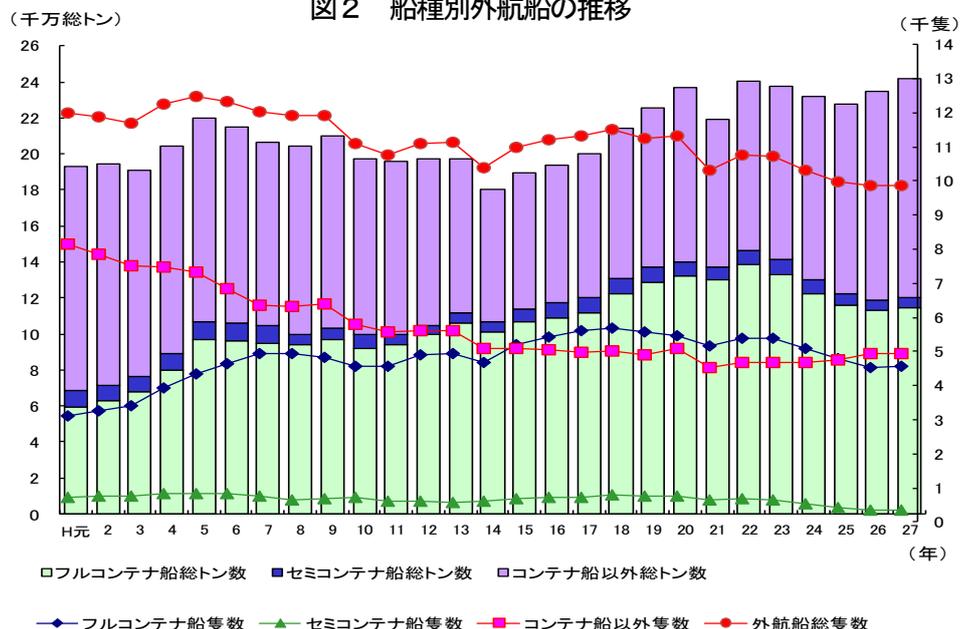
図1 入港船舶の推移



外航船の入港隻数は9,865隻（0.0%増）、総トン数は2億4,166万総トン（3.1%増）と過去最高となりました。このうちフルコンテナ船は4,584隻（0.8%増）、総トン数は1億1,469万総トン（1.6%増）となっています。

内航船の入港隻数は2万6,114隻（0.8%減）、総トン数は4,289万総トン（1.6%増）となりました。

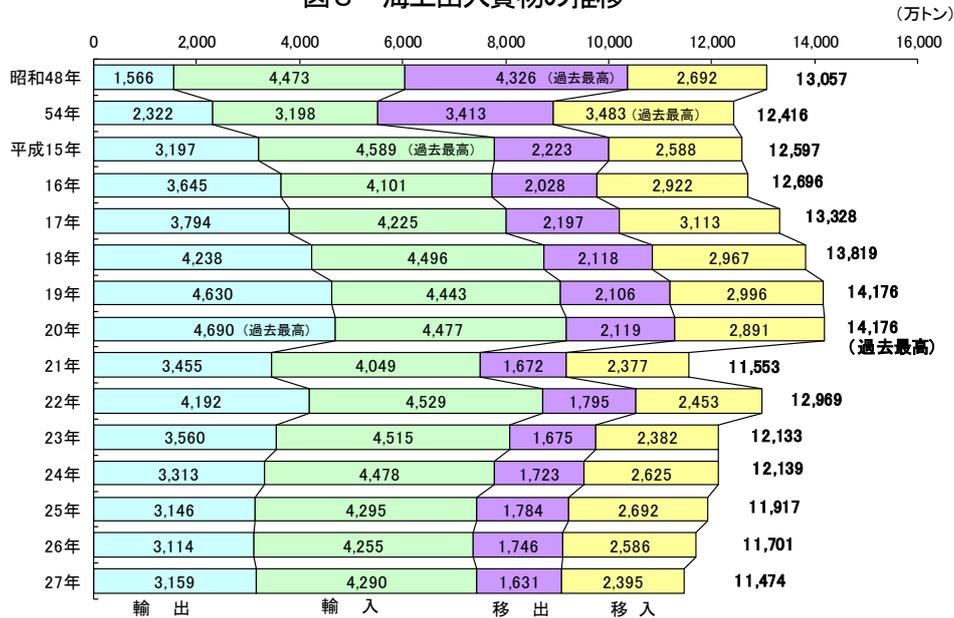
図2 船種別外航船の推移



## 2 海上出入貨物

- (1) 総貨物量 … 昨年に引き続き減少、外貿は5年ぶりの増加、内貿は2年連続の減少 【P14、15】  
 総貨物量は1億1,474万トン(1.9%減)で、そのうち外貿貨物量(輸出・輸入)は7,449万トン(1.1%増)、内貿貨物量(移出・移入)は4,025万トン(7.1%減)となりました。

図3 海上出入貨物の推移



- (2) 輸出貨物 … 前年比1.4%増で5年ぶりの増加 【P14~16】

輸出貨物量は3,159万トン(1.4%増)で、5年ぶりに増加に転じました。  
 品種別では完成自動車が10.2%増の1,319万トンと2年連続で増加し、産業機械も5.3%増の284万トンと2年連続で増加しています。  
 国別では、第1位の中国が、石油製品などが増加し、519万トン(0.7%増)と5年ぶりに増加しました。また、完成自動車の取扱いが増加したオーストラリア(178万トン、22.7%増)とサウジアラビア(148万トン、18.7%増)が、それぞれ第3位、第4位となっています。

図4 主要品種別輸出貨物

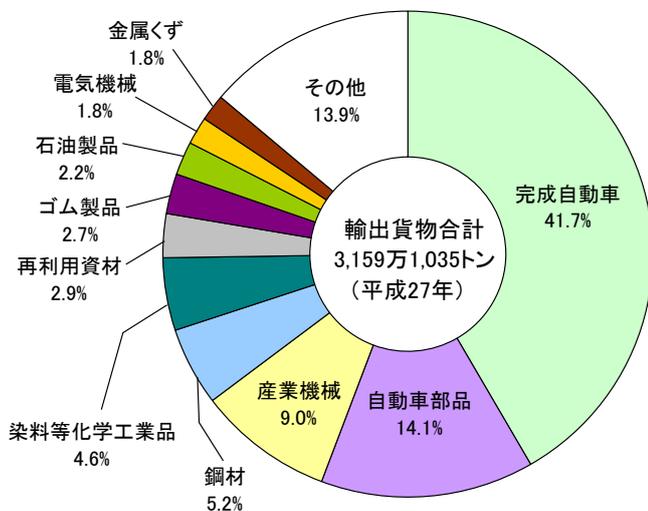
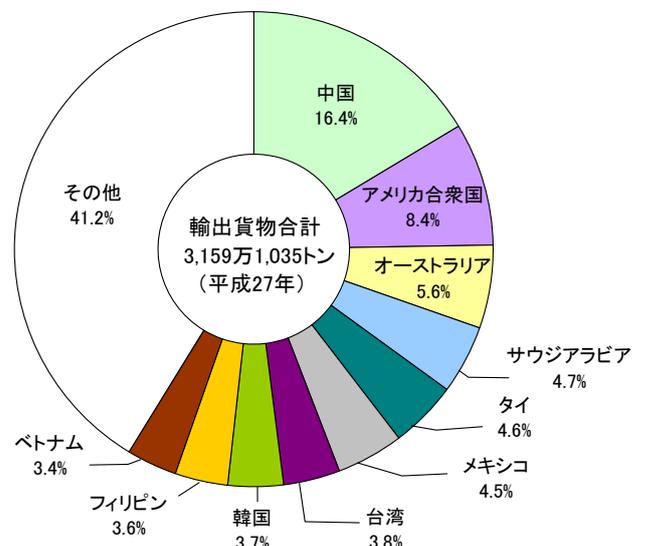


図5 主要国別輸出貨物



(3) 輸入貨物 … 前年比0.8%増で5年ぶりの増加【P14～16】

輸入貨物量は4,290万トン（0.8%増）で、輸出とともに5年ぶりの増加となりました。

品種別では、第2位の原油が29.0%増の609万トンと2年連続で増加し、第5位の石炭も34.0%増の137万トンと3年ぶりに増加しています。

国別では、第2位のオーストラリアが、LNGや石炭などの増加により623万トン（15.1%増、構成比14.5%）、第3位のサウジアラビアが、原油などの増加により480万トン（31.9%増、構成比11.2%）と、いずれも前年を上回りました。

図6 主要品種別輸入貨物

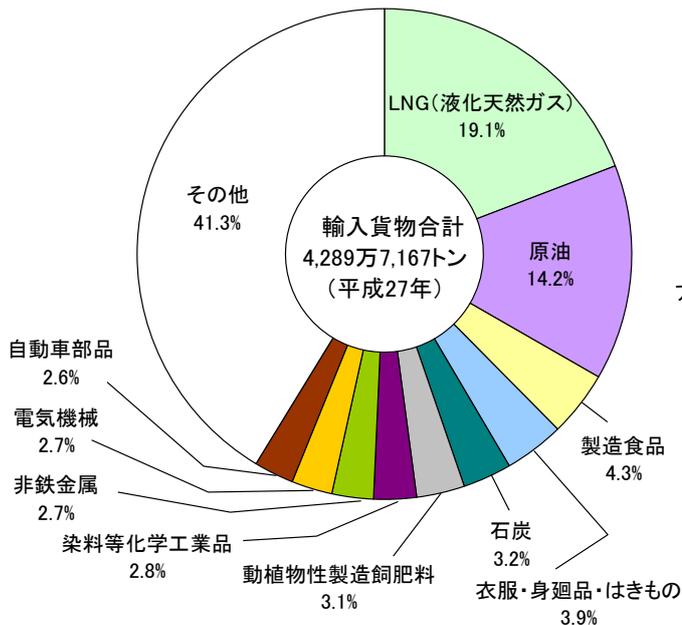
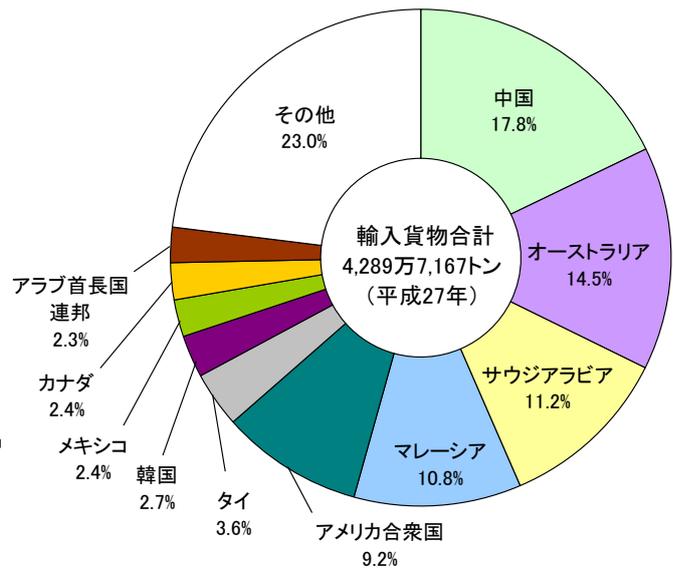


図7 主要国別輸入貨物



(4) 内貿貨物 【P14、15、18】

移出入貨物量合計は4,025万トン（7.1%減）で、2年連続の減少となりました。

品種別では、移出第1位の「石油製品」は480万トン（21.4%増、構成比29.5%）、移入第1位の「原油」は902万トン（6.6%減、構成比37.7%）となっています。

港別では、移出第1位の千葉港は322万トン（3.9%減、構成比19.8%）で「石油製品」の取扱いが最も多く、移入第1位の喜入港は902万トン（6.6%減、構成比37.7%）で「原油」のみの取扱いとなっています。

図8 主要品種別移出貨物

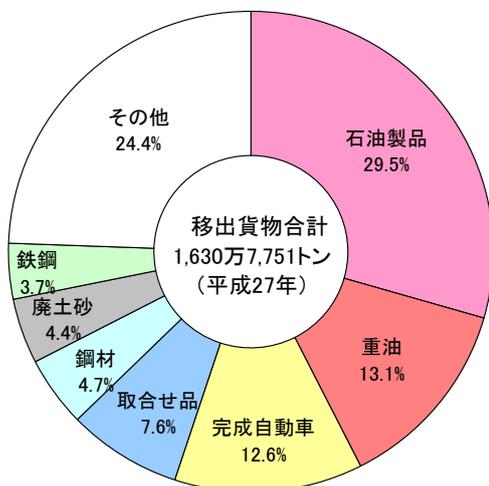


図9 主要港別移出貨物

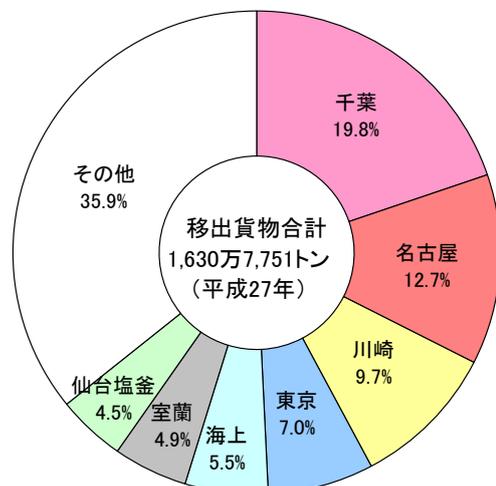


図10 主要品種別移入貨物

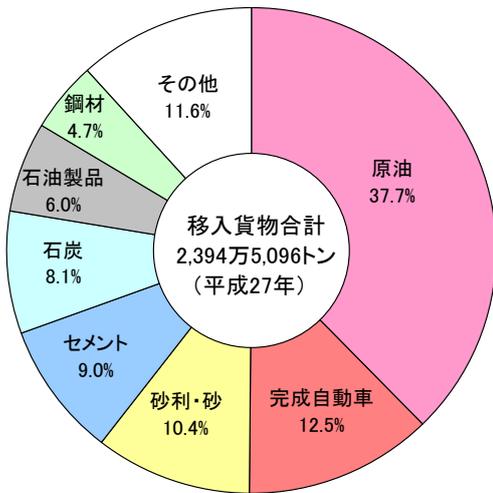
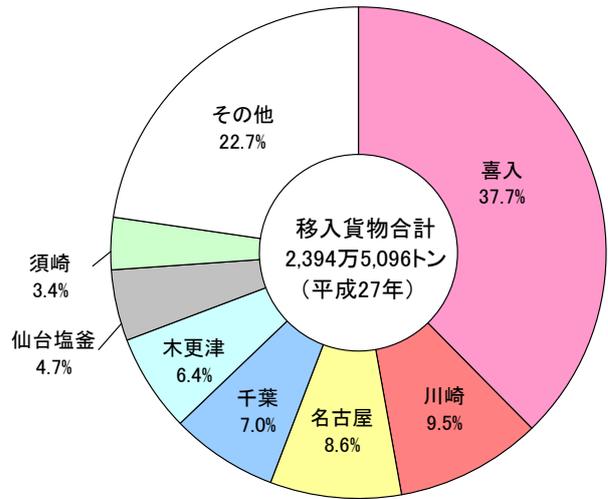


図11 主要港別移入貨物



(5) コンテナ貨物 【P14、15、25】

外貨コンテナ貨物量は、輸出が1,503万トン(7.8%減)、輸入が2,180万トン(2.1%減)、輸出・輸入合計では3,683万トン(4.5%減)で、5年連続の減少となりました。

外貨貨物全体に占めるコンテナ貨物の割合は49.4%となっています。

図12 外貨貨物量の推移

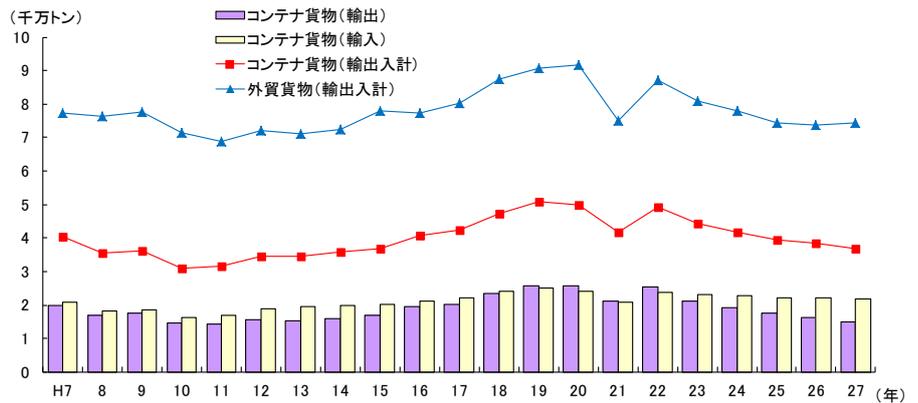
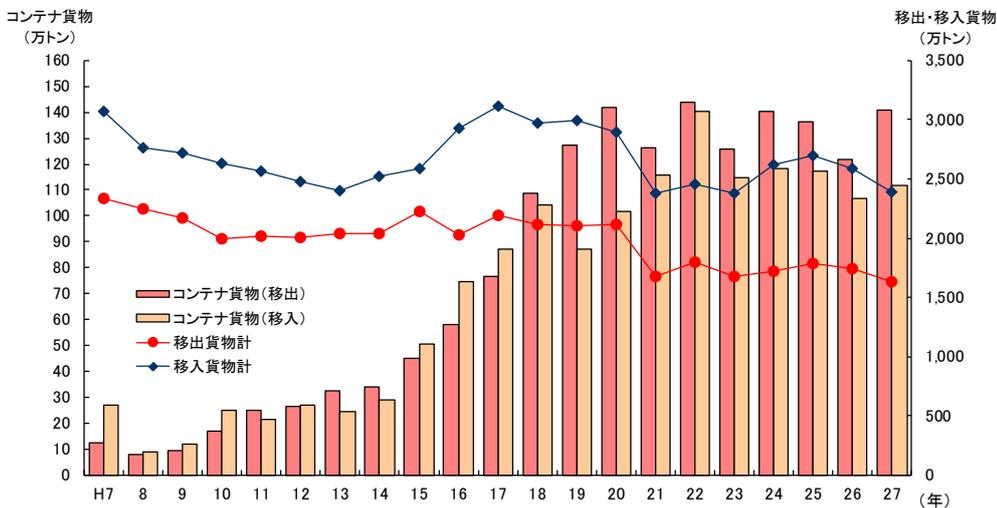


図13 内貨貨物量の推移

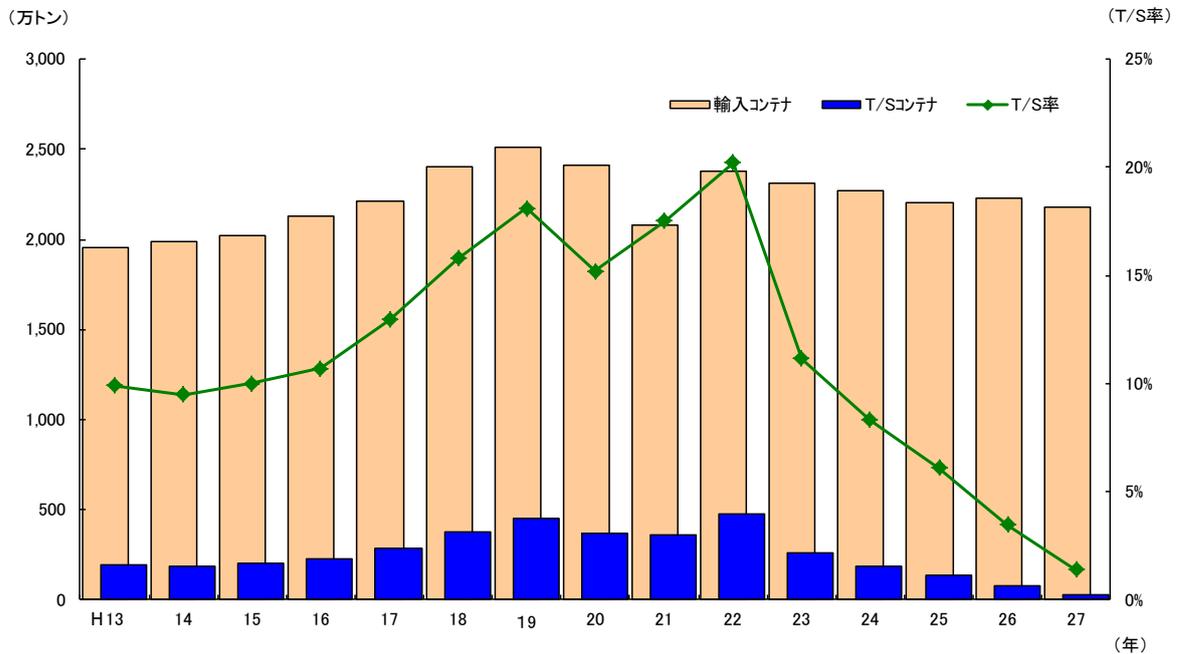


内貨コンテナ貨物量は、移出が141万トン(15.7%増)、移入が112万トン(4.5%増)、移出・移入合計では252万トン(10.5%増)で、3年ぶりの増加となりました。

(6) トランシップコンテナ貨物 【P26】

輸入コンテナ貨物のうち、横浜港で積み替えたトランシップコンテナ貨物量は31万トン、トランシップ率は1.4%で、5年連続の減少となりました。

図14 トランシップコンテナ貨物の推移



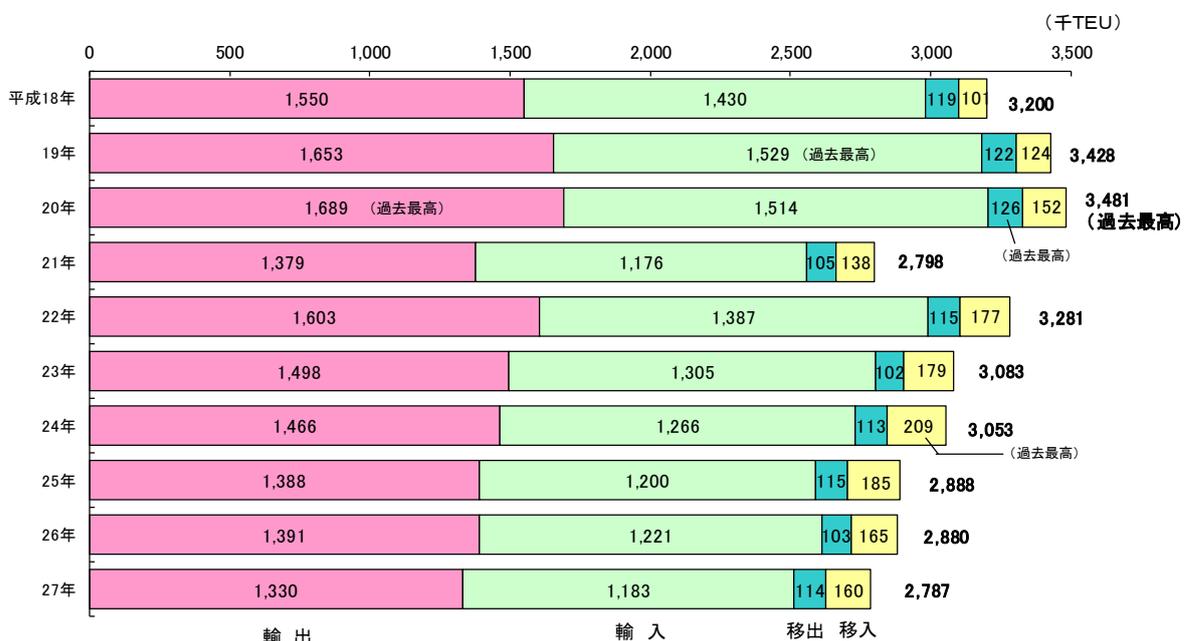
(7) コンテナ個数 … 279万TEUで前年比3.2%減、内貿は3年ぶりの増加【P20～25、P48】

外貿・内貿合計は279万TEU (3.2%減) となりました。

外貿コンテナ個数は、輸出が133万TEU (4.4%減) となり、ベトナム (26.6%増) などが前年を上回りましたが、中国 (10.6%減) やアメリカ合衆国 (30.0%減) などは前年を下回りました。輸入は118万TEU (3.1%減) で、オーストラリア (25.2%増) や、メキシコ (21.4%増) などが前年を大幅に上回りましたが、中国 (5.6%減) やアメリカ合衆国 (22.6%減) などは前年を下回りました。

内貿コンテナ個数は、移出が11万TEU (10.3%増)、移入が16万TEU (3.1%減)、移出・移入合計では27万TEU (2.1%増) で、3年ぶりの増加となりました。

図15 コンテナ個数の推移



横浜港のコンテナ取扱個数（279万TEU）は、東京港（463万TEU）に次いで16年連続で第2位となりました。主要5港では、神戸港を除く4港が前年の実績を下回りました。

図16 主要港別コンテナ個数

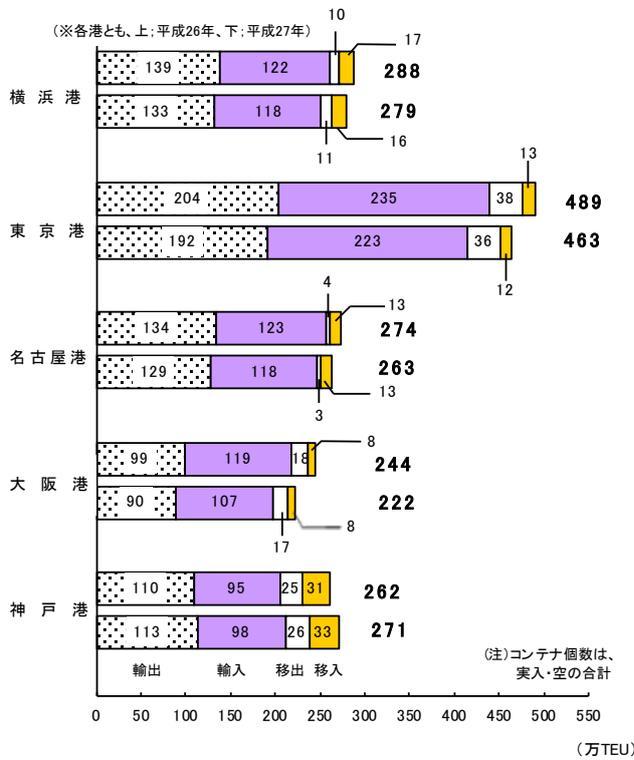
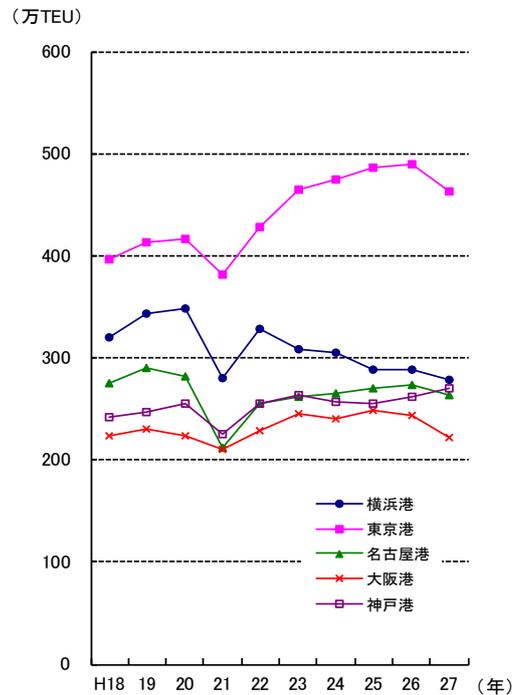


図17 主要港別コンテナ個数の推移



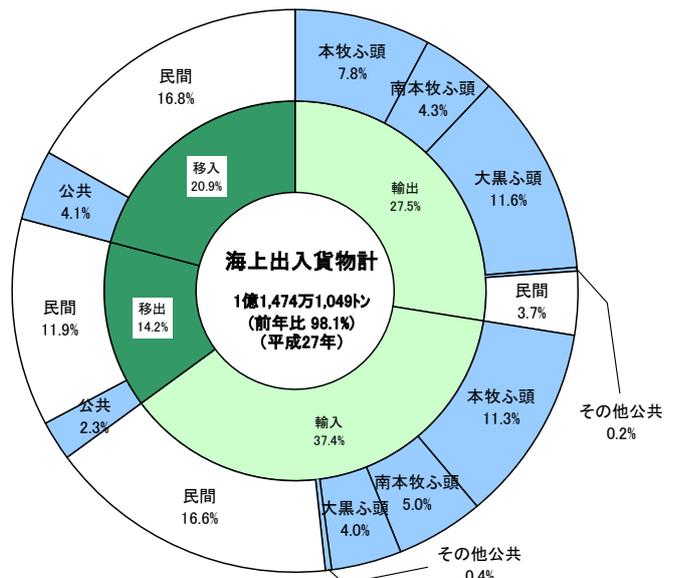
### 3 施設別取扱貨物量 【P28～30】

総貨物量1億1,474万トンに占める公共施設の取扱貨物量は5,849万トン（3.7%減、構成比51.0%）、民間施設は5,625万トン（0.1%減、構成比49.0%）となりました。

外貨貨物について、公共・民間別の割合をみると、公共施設での取扱量が5,122万トン（1.9%減、構成比68.8%）で、外貨貨物量の約7割を占めており、取扱第1位は「本牧ふ頭」の2,193万トン（2.7%減、構成比29.4%）となっています。

一方、内貨貨物についてみると、民間施設での取扱量が3,298万トン（5.2%減、構成比81.9%）で、内貨貨物量の約8割を占めています。

図18 施設別取扱貨物



※ 公共（本牧、南本牧、大黒、その他公共）は、横浜市及び横浜港埠頭株式会社が所有する施設。